



登壇者プロフィール

氏名：重城 健太郎

所属：西新井ハートセンター病院  
 役職：医師

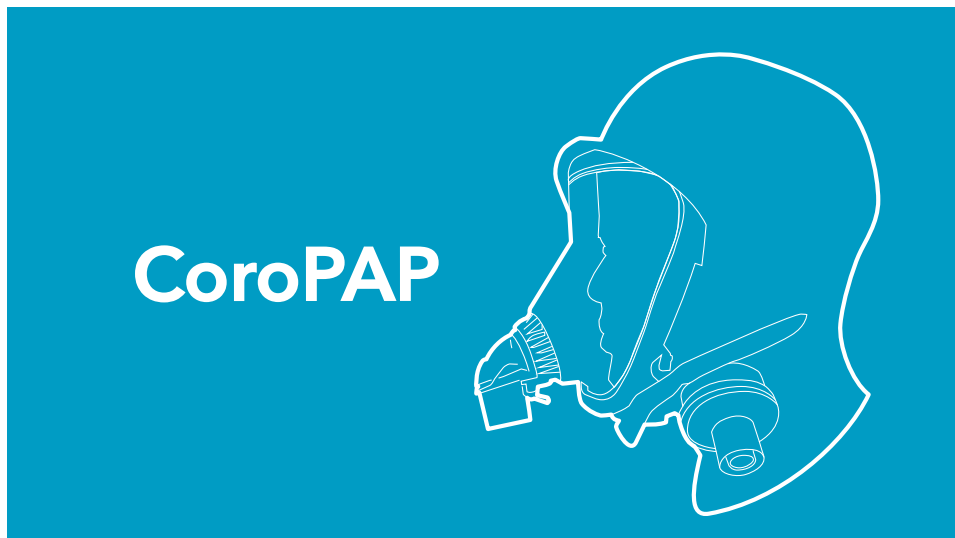
2002年より医師として活動。4年間のアメリカ留学での基礎研究期間を経て、現在は循環器内科医として診療に従事している。その傍ら、SUNRISE labという循環器ドクターのコミュニティを主宰。これまでに留学生の支援をはじめとする多くのイベントを開催し、そのネットワークを広げている。ウィズコロナ時代に突入し、患者さんの治療対応にも、医師の在り方にも変化が必要だと感じ、今回のコンテストに応募。

団体概要

西新井ハートセンター病院には循環器内科と心臓血管外科があり、これまでに多くの循環器疾患の患者さんの治療に携わってきました。循環器疾患に特化したスタッフは専門性が高く、2016年に発表した論文は、現在の心不全治療ガイドラインにも引用されています。今回はアイデア満載のドクターのもと、臨床工学技士全員が一丸となってモノ作りを担当し、試行錯誤の末CoroPAPの試作機を作り上げました。一日でも早く全国の医療機関で使用可能となり、多くの患者さんと医療スタッフのメリットが増えればと考えております。

応募団体 西新井ハートセンター病院

ウィズコロナ時代でも陽圧呼吸療法ができる  
 パーソナル陰圧マスク：CoroPAP



新型コロナウイルスの世界的な蔓延は、日本にもすでに第3波として押し寄せています。累計の感染者数は24万人を超え、わたしたちの生活を一変させました。そして、まさに医療崩壊が目の前に迫っています。死亡率の高い心不全患者さんの呼吸サポートには、陽圧換気療法(CPAP)が用いられていましたが、エアロゾルのリークのため新型コロナ疑い患者への使用が禁止されました。

このため気管内挿管による呼吸サポートを余儀なくされ、患者さんと医療スタッフの危険性が高まっています。そこで頭部全体を覆ってしまうCoroPAPを提案します。CPAPと同等の陽圧効果が得られ、かつリークがないこのデバイスによって、患者さんの生命はもとより、医療スタッフのリスクを減らして医療崩壊を防ぎたい。これがわたたくしたちの希望です。

CoroPAPの特徴

頭部を覆いエアロゾルを防止!

